

ラテックスアレルギー患者への安全対策

1. 目的

ラテックスによるアナフィラキシーを予防する。

ラテックスによるアナフィラキシー発症時の対応ができる。

*ここでは、ラテックスアレルギーと診断されている患者及び疑いのある患者への予防策と対応策を述べる。

2. 用語の定義

- 1) 「ラテックスアレルギー」とは、天然ゴム製の手袋やその他の天然ゴムを含む製品に曝露し続けている人に、掻痒感や蕁麻疹、鼻・眼・喉の症状、喘息発作、あるいはアナフィラキシーショックと言う重篤な接触により起こる即時型（I型）アレルギー。
- 2) 「アナフィラキシー」とは、以前に感作され再びその感作抗原を受けたものに起こる、急性の、しばしば生命の危機を脅かす、免疫グロブリンE（immunoglobulin E：IgE）介在性の全身反応を言う。
- 3) 「ラテックスフルーツ症候群」とは、クリ、バナナ、アボカド、キウイなどの食品やその加工品の摂取時に、アナフィラキシー、気管支喘息、蕁麻疹、口腔アレルギー症候群などの即時型アレルギー反応を起こす場合があり、この現象はラテックスフルーツ症候群と呼ばれている。
- 4) 「ラテックス製品」、天然ゴム（Natural Rubber Latex）を使用している製品。
- 5) 「非ラテックス製品（ラテックスフリー）」ニトリル、デュラプレーン、ネオプレーンなどの合成ゴム製品、シリコン、プラスチックを使用している製品。

3. 必要物品

- 1) 手術室で患者に使用するもの全てのラテックスフリー製品
例：手術用手袋、ドレーン、マスク、バイトブロック、膀胱留置カテーテルなど
※ラテックスフリー製品は常備しておく。
- 2) アナフィラキシーショックに対応できる薬剤
アナフィラキシーショック補助治療薬 抗ヒスタミン薬 副腎皮質ステロイドなど
- 3) 心肺蘇生に必要な物品

4. 必要な知識

- 1) ラテックスアレルギーのハイリスクグループ
アレルゲンとの接触とアレルギーを起こしやすい体質により決まってくる。天然ゴムを含む製品に接触する機会の多い人はそのリスクが高まる。

表12 誘発され得る反応の危険性から分類したリスク集団

①全身的な反応を起こす危険性が高いグループ	・ 繰り返し手術を受けてきた者、特に二分脊椎症などの骨髄異形成や泌尿生殖器の先天性異常のため、生後まもなくから繰り返し手術を受けてきた者。または、医療用具・機器による処置を、繰り返し長期にわたって受けてきた小児の患者 ・ 原因が不明確なアレルギー反応や喘息発作など、ラテックスアレルギーに相当するような症状を手術中に経験したことがある者 ・ ラテックス抗原特異IgE抗体が陽性の者。または、ラテックス抗原を用いたプリックテストが陽性の者 ・ 天然ゴム製品と接触した際に、蕁麻疹やアレルギー性結膜炎、気管支喘息、気管支喘息様症状などの即時型アレルギー反応を経験したことがある者
②ラテックスアレルギーを起こす可能性が高いグループ	・ パウダーが塗布された天然ゴム製の手袋を使用している者。空中に飛散したラテックス抗原に曝露される可能性がある職業に就いている者 ・ 天然ゴムとの交差抗原性が知られているバナナやキウイ、アボカド、ポテト、トマト、パパイア、クリなどの植物性食品に対するアレルギー反応を経験したことがある者 ・ 天然ゴム製の手袋に対する接触性皮膚炎を経験したことがある者
③ラテックスアレルギーの可能性があり診断を受けるべきグループ	・ 原因不明のアナフィラキシーショックを経験したことがある者。特に医療処置や歯科治療中にショック症状が起こった場合 ・ 歯科治療や婦人科的な診療、あるいは風船・コンドーム・天然ゴム製手袋への接触など、天然ゴム製品への偶発的な曝露の後、蕁麻疹や痒みを経験したことがある者 ・ 何度も手術を受けたことがある者

ラテックスアレルギーガイドラインより引用

- 2) クリ、バナナ、アボカド、キウイなどの 植物性食品（ラテックスと類似する蛋白質を有する食品）を摂取時に、即時型アレルギー反応を起こした既往のある患者は、ラテックスアレルギーを発症する可能性が高いので注意が必要である。
ラテックスフルーツ症候群の代表的な食品：クリ、バナナ、アボカド、キウイ、イチジク、パイナップル、パパイア、パッションフルーツ、モモ、西洋梨、クルミ、ヘーゼルナッツ、アーモンド、グレープフルーツ、メロン、イチゴ、ジャガイモ、トマト、ほうれん草、レタス、セロリ、多種スパイスなど
- 3) ラテックス製品は、特に患者の粘膜や体腔に直接接触すると、アレルギーを引き起こしやすい。
- 4) 天然ゴム製のパウダー付き手袋は、パウダーにラテックス抗原が付着し、空気中に浮遊し吸入アレルゲンとなる場合がある。
- 5) アナフィラキシーショック発症時には、まずボスミン（エピネフィリン®）を使用できるように指示に従い準備をする。

6) 心肺蘇生物品にも、ラテックスフリー製品を整備する。

7) アナフィラキシーの臨床症状の特徴

アナフィラキシーは、抗原が投与された時のみに発症し、治療に反応したあとの経過では特別な症状の発現が見られないことが一般的である。しかし、アナフィラキシーショック早期の治療に成功したあとに、抗原が投与されていないにも関わらず、数十分後から数十時間後に血圧低下や咽頭浮腫、気管支痙攣、皮膚症状（紅斑、蕁麻疹）などがおこる、二相性アナフィラキシーが1～20%で発現することがある。

5. 要 点

- 1) ラテックスフリー製品とラテックス製品の区別を明確にし、把握しておく。
- 2) 事前にアレルギーの情報のある患者に使用する製品が、ラテックスフリーであることを確認する。
- 3) ラテックスアレルギーを予測していない患者が、アナフィラキシーショック様症状を呈した場合には、原因の1つとしてラテックスアレルギーを疑う。
- 4) 患者のラテックスアレルギーの程度によっては、手術を中止するか継続するかの判断が必要である。

6. 看護手順

看護手順	留意点（コツ・ポイント）
<術前> ☐ アレルギーの有無に関する情報収集を行う。 ☐ ラテックスアレルギーのハイリスク患者であるかどうかの情報を確認する。 ☐ 患者に対し、予防対策を講じる必要があるかをアセスメントする。 ☐ ラテックスアレルギーの可能性があれば、医師に報告し、対応策を協議する。 ☐ 医師による I.C が行われているかを確認する。 ☐ 患者が I.C の内容を理解し、同意をしているかを確認する。	① ゴム製品アレルギー、食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎などを詳細に確認する。 ② 皮膚の状態を観察する。 ③ アレルギー情報と関連づけて、情報収集する。 ④ 対応策に応じて手術に携わる医療チーム間で情報伝達を行う。 ⑤ I.C の内容として、ラテックスアレルギーの可能性と対応策が患者に説明されているかの確認が必要である。

☐ 入室予定の手術室内のラテックス製品を排除し、ラテックスフリー製品を準備する。 ☐ ドアや室内にラテックスアレルギーの表示をする。 ☐ アナフィラキシー発症時に対応できる薬剤の準備及び確認をしておく。 ☐ 蘇生に必要な物品や薬剤の準備及び確認を行う。 ☐ 緊急時の応援体制を確認しておく。 ☐ 入室直前に、ラテックスフリーの環境が整っているか医療チーム内で最終確認を行う。 【術中】 ☐ 手術に入る全てのスタッフは、ラテックスフリー手袋を装着する。 ☐ バイタルサインの観察を行う。 ☐ 呼吸の異常の有無を麻酔医と共に観察する ・気道内圧の上昇 ・SPO₂の低下 ・SPCO₂の上昇 ・喘鳴 ☐ 皮膚状態を観察する ・紅斑の有無 ・膨疹の有無	⑥ 誤使用を避ける為、部屋の中にラテックス製品を置かない。 ⑦ 医療従事者間で認識できる表示方法とする。患者のプライバシーに配慮する。 ⑧ 特に急激な血圧低下に注意をして観察を行う。 ⑨ 局所麻酔の患者では、呼吸困難がある場合速やかに気道を確保しやすい体位をとる。
--	--

<術後> ☐ 呼吸の異常の有無を観察する。 ・ 喘鳴 ・ 嚔声 ☐ 皮膚状態を観察する。 ・ 紅斑の有無 ・ 膨疹の有無 ☐ ラテックスフリー対策を行ったこととその結果を記録に残す。 ☐ 病棟看護師への引き継ぎを行う。 <アレルギーを発症した場合> ☐ ショックが起こった場合は、応援を呼び救命措置を優先して行う。 ☐ チームで原因を究明する。 ☐ ラテックスによるアレルギーが疑わしい場合は、ラテックス製品が使用されているかを確認する。 ☐ ラテックス製品が使われていた場合、速やかに代替品と交換する。 ☐ 報告ルートに従い、管理責任者に報告する。 ☐ 行ったこととその結果を記録に残す。 ☐ 病棟看護師への引き継ぎを行う。	⑩ 継続的な予防ケアを行うため、実践したケアや患者の状態を病棟看護師へ引き継ぐ。 ⑪ 使用薬剤は、ボスミン（エピネフィリン？）が第一選択薬であることを念頭に置き、指示に従いすぐに使用できるように準備を行う。
---	---